

## 27PA-am106

医史学的資料の分析～江戸期の医師井上貫流の遺した異物資料の成分検査～

○大森 毅<sup>1</sup>, 大津留 修<sup>1</sup>, 中西 宏明<sup>2</sup>, 笠松 正昭<sup>1</sup>, 杉田 律子<sup>1</sup>, 長岡 功<sup>2</sup>, 齋藤 一之<sup>2</sup>, 落合 則子<sup>3</sup>, 酒井 シヅ<sup>2</sup> (<sup>1</sup>科警研, <sup>2</sup>順天堂大医, <sup>3</sup>江戸東京博物館)

[はじめに] 江戸東京博物館が所蔵している江戸時代の町医者であり兵学者である井上貫流(1740～1812)の遺した資料中に、患者の吐しゃ物から発見された二つの異物が当時の書き付けと共にある。井上貫流の残した古文書類は当時の町医者事情を知る貴重な資料として期待されるため、順天堂大学と科警研でこの異物がどのような物質であるか検査を実施したので報告する。

[方法] 二つの異物のうち胡桃の破片のような外観を持つ物について検査を行った。資料の断面を見ると中心から放射状の筋がのび、中心部は明るい茶色の層で、外縁部は暗い茶色の層であった。蛍光 X 線分析および赤外分光分析を実施し、その成分を推定した。対照としてコレステロール、コール酸類、牛黄、熊胆を検査し、比較した。

[結果] 蛍光 X 線分析の結果、カルシウム、カリウム、イオウ、リンが検出されたが、重金属元素は検出されなかった。赤外分光分析の結果はコレステロールのスペクトルとほぼ一致した。資料の外観と、成分がコレステロールであるという点から資料は胆石の可能性がある。現在さらにヒト DNA 検査を実施している。